

そのぶん寿命を延ばしたい

夕方まで、それを考えていた。

途中、暑いので、裸になって、家の中庭で、洗濯用の大きなたらい桶を出して、水風呂に入る。

体を、ひんやりした水に浸す感触が、たまらなく快感だ。ブルン、ブルンと、矢になった気持ち。

何度も、学校で大藤から借りた自転車で、宇治川沿いへ行く。兄貴の家庭教師の生徒が来ていて、僕の部屋を使うので、部屋に入れない。

夕食後、横になったが、早く原稿を完成させねばと、再び、起き上がり、頭をねる。

もちろん、早く寝ないと、夜中に起きての、予定の勉強が、難しくなるのは覚悟の上だ。

それ以外は全く暇な日。

こんな時間、存在しないで、

この部分の時間を、後の寿命の、

先に、いや、尾っぽにかな、

そこにくっつけてほしい。

そのぶん寿命を延ばしたい。

彼女のことを気になる。

しかし、スピーチの原稿作成が最優先。

先が見えないので落ち着かない。